寄せ太鼓

北九州市立長崎街道木屋瀬宿記念館運営協議会広報部会
北九州市八幡西区木屋瀬三丁目16番26号(〒807-1261)
TEL 093-619-1149
FAX 093-617-4949

盛夏を飾る木屋瀬祇園！
熱き思いで準備がすすむ

本年も木屋瀬の夏を飾る祇園祭りが近づいてきました。この祇園祭りは五百七十有余年の間、営々と継承されてきた歴史と伝統のある地域最大の祭典であります。

木屋瀬町誌にも寛永年間から明治に至るまでは岩山造りで高く、重く他村の壮丁の加勢を受けてかついできたとあり山笠は古より祇園祭礼の定例といわれてきました。

この山笠の人形創作は須賀神社正面の山笠会館で若手有志が熱い思いを込めて趣向を凝らしながら製作を行っています。

そして、昔は「輪越し」といわれた茅の輪くぐりの夏越し祭りは別に執り行われていましたが、現在では祇園祭礼と併せて行われており、人形（ひとがた）に男子は白、女子は紅の用紙に氏名と年齢を書き入れ邪神を祓い息災を念願し神前に納められます。

また、一般的には知られていないと思いますが山笠が出動するまでの間に「棒洗い」「台からげ」などの作業ならびに儀式があります。これは、町内会長、宮総代、宮がかりの方々が祭りの前に懸命に努められています。こうした木屋瀬の祇園祭りは歴史的な文化遺産として次世代へ正しく継承されていくことを心から念願するものであります。

さて、本年の祇園祭りは七月一四日(土)、十五日(日)に執り行われます。輪番制による当番町は、一番山が中央町、二番山が中町で聡取締役は一番山が佐々木一彦さん、二番山が調克人さんとなっています。木屋瀬住民が血湧き肉踊らせる祇園祭りを間近に控え当番町を中心に準備が着々と進められています。

祭り本番はお汐い取りに始まり事務所開き、山笠巡行、山笠奉納、宵山笠、追い山、宮入りと古式にのっとりすすめられます。

地域最大の祭りとされる木屋瀬祇園祭りが住民の皆様のご協力で成功裡に幕が引けることを心から願うものであります。

木屋瀬宿記念館　広報部会　徳永　興紀

総合問い合わせ先
長崎街道
木屋瀬宿記念館
☎ 093 619・1149

筑前木屋瀬　第３回
今昔歳時記

紅屋泰助氏(故　柴田泰助氏)の「筑前木屋瀬今昔歳時記」(「ひろば北九州」連載)の第３回目です。今回は、第２回でご紹介しました〔木屋瀬芸術祭〕の続きをご紹介させて戴きます。

③〔筑前郷土芸能連絡会議〕

木屋瀬の「宿場踊り」(福岡県無形民俗文化財)と同様に、地域の永い歴史に培われ育まれて来た伝承盆踊りの保存・育成団体を招いて始めました。今では伝承盆踊り団体が集結する年に一度の祭典へと発展し、参加諸団体が企画・運営に参画する程に成長して参りました。

（今年の芸術祭には、８団体が集結　註　記念館）

④〔記念シンポジウム・『メタルカラーの時代　鉄の都は甦る』か？〕

北九州市は、「モノづくり」百年の歴史の節目に「今後の百年も先進的なモノづくり」を続ける大計を宣言。その際に、産業を支えている技能者に光をあて、其の優れた技能を財産として後進に継承していく事を骨子として、北九州マイスター制度を制定しました。「モノづくり」と同様に「まちづくり」に於いても、要諦を為すのは創意工夫と情熱の継続であります。市の今後百年の大計たる「先進的なモノづくりの継続」の為の重要課題が「優秀な人材の確保と育成」であるように、「未来に向けてのまちづくり」に於いても、未来を担う後進の育成が重要な課題であります。かくなる観点から、毎回五～六人の北九州マイスターを招き、「モノづくり」の現場で培われた深い造詣に基づく興味深い討論が展開されます。

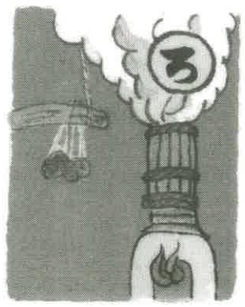
以上の他、形骸化されたセレモニーや一過性の集客を望むのではなく「本物志向による継続と発展性」を念頭に置いて、演芸・コンサート・映画などの多彩なプログラムを連休を通じて開催します。又、〔木屋瀬芸術祭〕に協賛して旧長崎街道筋の町屋や須賀神社でも様々な催しを行って居ります。今年の五月の連休は、昔宿場の木屋瀬にて、古き良き時代の文化と気風に満ちたひと時をご体験戴ければ、関係者一同の歓びとする処でございます。

（今年の芸術祭は、多くの皆様のご協力を賜り、盛況に開催されました　註　記念館）

つづく（記念館）

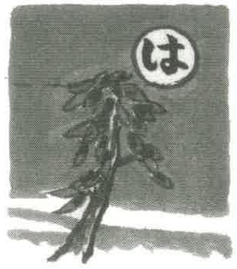
いろはかるたのご紹介

ろ　蝋絞（ろうじめ）　板場（いたば）が　三四軒（さんしけん）



黒田藩（筑前の国）は黄櫨の生産を重要産業として奨励して居ました。板場は、黄櫨の実を蒸し、絞り、生蝋を製造する処の総称でございます。木屋瀬にも生蝋を製造する板場が三～四軒在り、其の代表格が、旧高崎家（伊馬春部生家　屋号「柏屋新・カネタマ」）の道を隔てて前に在った高崎本家（屋号「柏屋・カネシメ」）と聞き及んで居ります。

は　黄櫨の木（はぜのき）　境（さかい）が　郡堺（ぐんさかい）



黒田藩は黄櫨蝋の生産を奨励しておりましたので、木屋瀬にも黄櫨の木が多く植えられました。

郡堺の黄櫨の木とは、遠賀川の土手扇天満宮と寿命の水門との間、丁度、鞍手郡と遠賀郡とを分ける境の用水路沿いに植えられていた黄櫨並木で、昭和の中頃までは何本かが残っていたのを覚えて居ります。

シリーズ 筑前木屋瀬宿 神仏めぐり

第四十三回 光明山色照院 長徳寺 阿弥陀如来三尊

桜が散り葉桜が緑なす頃　長徳寺を訪ね仏様を拝顔しました。最近日本の仏像が世界の人々に大変興味を持たれ、日本に来る外国の観光客は仏像を見て感動します。仏像は鑑賞の対象として作像されたものではなく、信仰の対象として作られたものです。しかし、世界の人々に感動を与える文化的にも大変価値あるものです。さて　長徳寺の本堂には、阿弥陀如来を中心として、脇に観音菩薩と勢至菩薩の三尊が並び横に善導大師と法然上人の五尊が祀られております。どの仏像も蓮の花の台座に乗っています。「何故　仏像は蓮の花の上に乗っているのでしょうか」「仏具はなぜ蓮の花の形が多いのか」　実は、仏教の教えを蓮の花に例えて教えているのです。「蓮は泥より出でて泥に染まらず」と言われるように、泥の中から出て綺麗な花を咲かせます。不浄が混在する泥のようなこの世から、花咲く浄土の世界へと導く阿弥陀如来の教えを説く例えなのです。長徳寺は、創建当時は天台宗でしたが、鎮西上人が度々寄寓されて浄土門を説かれ、一二三五年浄土宗として開基しています。本尊の阿弥陀如来は江戸後期の作で立像です。立像の意味は、阿弥陀仏が菩薩の時、四十八の願を立て、あらゆる衆生が信心と念仏によって浄土に往生できなければ、自分も仏に成らないと誓い修行して阿弥陀仏となられました。ですから、阿弥陀仏自らが立ちあがって衆生を浄土へ導く姿が阿弥陀如来立像です。阿弥陀如来は、「南無阿弥陀仏」と念仏を唱えれば、極楽浄土へ導いてくれる仏さまです。脇侍の観音菩薩、勢至菩薩は、阿弥陀如来のはたらきをサポートする仏です。観音菩薩は単独でも祀られますが、勢至菩薩は単独で祀られることはありません。仏教は、インドで生まれた釈迦の教えで、その後中国に渡り、中国の善導大師が釈迦の教えの中から、浄土教を大成し、「観経疏」を書かれました。その著作の浄土の教えを確信した法然上人が、日本に浄土教を広めました。法然上人の弟子が鎮西上人です。長徳寺で聞く浄土の教えは、インドのお釈迦様から連綿と続いた確かな教えです。仏像は見る者の、年齢　心の状態で見えてくるもの　感じるものが違います。何度も同じ仏像に接し、その時自分が何を感じるかを確認することが、心の癒しとなり信仰となることでしょう。

阿弥陀如来立像

覗きみるあのせこのせや螢の火
天命の知らせはありや蓮の花

宿場木屋瀬街づくりの会 会長　野口靖彦

こやのせ座からのお知らせ

■夏休みイベント(予告)

毎年恒例「たなばたまつり」を8月4日(土)に開催を予定しています。昔遊び体験やビンゴ大会、ホラーメイク、人形劇に星座観測など、楽しい催し物を多数ご用意しております。皆様のお越しをお待ちしております。

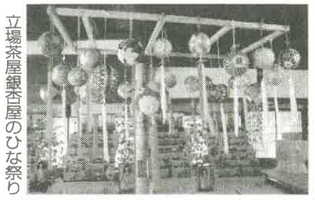
■第68回企画展報告

「長崎街道ひなまつり　木屋瀬宿～立場茶屋銀杏屋」

平成30年2月17日(土)～3月18日(日)まで開催しておりました。みちの郷土史料館第68回企画展「長崎街道ひなまつり　木屋瀬宿～立場茶屋銀杏屋」は、昨年に引き続き、石坂の立場茶屋銀杏屋と木屋瀬のもやいの家、旧高崎家住宅(伊馬春部生家)、木屋瀬宿記念館の4施設に、江戸あかりの民藝館を加えた5施設連携で行いました。

それぞれの施設で趣を変えて、古式の雛飾りやさげもん、精巧に作られた雛道具の展示をしました。史料館では現在見かけることは少なくなった御殿雛の展示や、キャプションを用いた雛道具の解説を致しました。

期間中、記念館には758名と多くの方が来館され、お雛様をお楽しみいただきました。ご来館誠にありがとうございました。



立場茶屋銀杏屋のひな祭り

■新任職員紹介

この度、北九州市役所の4月人事異動に伴いまして、木屋瀬宿記念館でも職員の異動がありました。

今後も記念館の事業運営を通じて地域文化の振興・継承に努めてまいりますので、前任者同様よろしくお願い申し上げます。

宇佐美館長

吉田主査

ホームページ
http://www.koyanose.jp

愛宕さま

日本は神国であった、この神国に仏教が渡って来た、その仏教を先づ貴族達が信仰し初めた。庶民の中にも、神国の神道は信じて守りながらも、仏の教えも知りたいと思う人達が多くなって来て神仏混淆形式のお詣り所が出来た。

木屋瀬愛宕さまのお堂内陣には、将軍地蔵や不動明王や古色に輝く狛犬一封等々が安置されていて、ここにも神仏混淆の名残りはある。愛宕さまは、求めに応じ占いもされていたが、人々を火難を主とし諸難よりお守り下さる神である。黒崎では一年に一度、全区の組長が揃い姪の浜の愛宕神社に、黒崎全区の火難除け祈願にお詣りする習わしが、古くより昭和初期まで続いていた。

明治四十年五月十四日、木屋瀬町部に大火災が発生している。真夜中に出火し、新町の一部より本町中町を全焼し、下町の一部に至る、百三十五戸を焼失している。地獄絵のごとくに舐めつくしてゆく紅蓮の炎の下、消防や神社寺院や各町内等々が打ち鳴らす鐘や太鼓、人々の探し求める声泣き叫ぶ声の渦巻く修羅の中で、神仏に鎮火を願い消火に当る人々の必死の団結力と、猛火の勢力との悲惨な闘いであった。愛宕さまの守は、火玉飛び散り火の粉舞い狂う中を、物ともせず黒一色の行者の姿ゆるぎなく、鎮火祈願の法螺貝を吹きつづけられていた。実に悽惨な天地であった。

わたしの昔話

約四時間を過ぎて鎮火しているが当時としては未曽有の大火災であり、罹災者の救助も、次のように多大にお受けしている。

「主なお名前のみ」

七府県七都市、三十二の村、十二区、十七学校、十一教会、二十二の寺、八炭坑五十団体多数の個人、更に米国、清国、韓国の在留同胞等々、実にありがたい御援助であった。

愛宕さまは火難除け祈願を初め、探し物や尋ね事や、病気等々で気になる時お詣りして、お尋ねしたり占ってもらっては、不安な心に落ちつきを頂いていた。

往きは曇る日、帰りは照る日の心おきないお詣り所であった。愛宕さまは今も尚、忘れた頃にやって来ると言われている。不吉なことが起きてはならないと、静かな町を見守っていて下さる。

本町　柴田由美子

柴田豊廣遺稿集より

■第17回木屋瀬芸術祭

恒例になりましたゴールデンウィークの木屋瀬芸術祭。5月3、4、5日の3日間、木屋瀬中学校吹奏楽部の演奏会を皮切りにスタート。6年間指導して頂いた土谷先生から真崎先生へとバトンが渡されました。一生懸命演奏に取り組む生徒と先生との熱気を感じました。また、新一年生は最初照れくさそうに踊りを披露していましたが、段々と自信がついたのか堂々とした演技になってきました。今後の活躍に期待が持てると思いました。

今年より新メニューを2つ取り入れました。朗読会「石積みの古城、河内貯水池：若き技術者の情熱とその家族の物語」です。約90年前、河内貯水池を設計した官営八幡製鐵所の土木課長、沼田尚徳。8年の歳月をかけ、石造りの立派な貯水池が完成した。延べ90万人が動員されたが、一人も殉職者は出なかった。しかし、沼田の家族には、人知れず悲しい出来事があった。河内貯水池の語りは、妻の沼田泰子からみた物語である。作者の若窪美恵さん、語りの古賀恭子さん、音楽のアルパカさん有難うございました。朗読会を聞いた方は、本物の奥さんが語っているようだったと大変好評でした。木管五重奏「北九州ウインドアンサンブル」コンサート。オーボエ・クラリネット・ファゴット・フルート・ホルン。親しみ易い楽曲を選曲して頂きました。若手奏者による珠玉のハーモニーに会場はうっとり。

筑前六宿連携事業として日本経済大学教授、竹川克幸氏による講演「明治維新150周年記念長崎街道筑前六宿と幕末の志士の旅」、筑前六宿フォーラム「大河ドラマ西郷どんにちなんで、六宿でのエピソード」を熱く語ってもらいました。

ハンギングバスケット講習会、筑前郷土芸能連絡会議も例年通りに開催。いずれも多数の参加者で盛り上がりました。今年はかなり格調高く出来たと自負しております。

貴重な連休にボランティアをして頂いた皆様に心より感謝いたします。ありがとうございました。

こやのせ座運営部会　山田　靖

■第18回総会

去る4月20日(金)19時より、こやのせ座で長崎街道木屋瀬宿記念館運営協議会の第18回総会が開催され、平成29年度事業報告及び決算、平成30年度事業計画案及び予算案がいずれも原案通り承認されました。

本年度は役員改選がありません、引き続き現体制で運営をいたします。どうぞ宜しくお願いいたします。

私は理事長就任以来、常に記念館への来場者数を気にかけています。平成29年度も3万人を越す利用者が有りほっとしたところです。理事をはじめ関係の皆様に心より感謝申し上げます。

一方総会出席者より質問がありました。来場者数の中でも「史料館への入館者数が開館当初に比べかなりの減数となっている点が気にかかる」とのご指摘があり、着任されたばかりの新館長は、「企画展をはじめとする史料館の運営に努力する」と答えられました。予算の減額や、設備の老朽化など問題点は多々ありますが、出来る事から取り組んでまいりたいと考えます。地域の皆様のご支援、ご協力を賜り「開館20周年」に向け努力をしてまいる所存です。今後ともよろしくお願い致します。

木屋瀬宿記念館運営協議会理事長　山田　靖